

BIG フェス のご報告

「私学の統一文化祭」として、コロナ禍で発表の場を失った中高生の輝く場、また私立の学費に悩む家庭にも教育の平等を願い、私学助成金運動を訴える場として、高校生フェスティバルに参加している生徒を中心とした一大イベント。2011年東日本大震災を機に始まった希望プロジェクトは各オクタームフェスティバルでも行われていますが、BIGフェスでは愛知県



私立高校生が一堂に会し、生徒会長共同アピール、弁論や構成詩、600人群舞などが大きなスケールで行われました。

11月3日、モリコロパークでは朝から晴れわたった美しい空にすじ雲が浮かび、秋の行楽には絶好の一日となりました。まずメインステージ前の大芝生広場では朝早くから教員や中高生たちでたくさんのテントを設営し、お昼から行われる企画の準備を着々とすすめていました。メインステージの各学園で作られた虹色に配色された幕が目を引き、本当に多くの人の手によって準備されてきたビッグイベントであることがうかがえました。

入り口でチケットを見せると検温し、体調カードに記名するとリストバンドが配られ装着。用意された4つのステージにはそれぞれ座席が用意されていますが、ロープで囲われ、入場にはステージごとにリストバンドのチェックと改めて手指消毒が必要となります。飲食の模擬店も今年は開催されず、感染対策を徹底したイベントだと感じました。



一方で中高生からすれば、お祭りの

定番である模擬店がなくなるのは参加する魅力が半減してしまうということ。その中で何のために集うのかを深く考え、対面でしか生まれぬ出会いの臨場感・連帯感、そして応援する観客の前で最高のパフォーマンスを発揮しようとする熱意を行動に移すことを高フェス実行委員長は呼びかけてきたそうです。それに呼応するように多くの中高生の活躍が光っていました。

10時からは第2ステージでダンスフェスが始まり、私立公立混ざって、クール系セクシー系チア系様々なダンスが披露されていたり、その横のイベントスペースでは大縄跳びの練習会が行われていたり、午前中からとても盛り上がっていました。

ダンスフェスは第二部のトップバッターに東海アンリミテッド∞ブレイカーズ(通称アンブレ)の6人が登場。クールなブレイクダンスを披露し、観客からの声援を集めていました。



お昼を過ぎると、初企画の縁日ストリートが始まり、各校の部活が様々な催事を行っていました。東海からは卓球部、ジャグリング部、生物部、棋道部、奇術愛好会、美術部、模型研究同好会、高フェスがブースを出し、それぞれの企画で楽しませてくれました。

第4ステージの方ではビートのきいた曲にノってダイナミックな技を混ぜ込みながら日頃の練習の成果を存分に発揮し、私たちの目を楽しませてくれました。特に技が決まった時は大きな拍手が起こり、パフォーマーも観客もどンドン盛り上がっていくのが楽しかったです。



縁日の横の広場では群舞練習会が行われていて、当日参加もOK。習熟度に合わせてグループを作り、たくさん的高校生が励んでいる姿を目にしました。

メインステージ上で愛知私学各校の学校紹介が始まると、代表の生徒数人が思い思いに学校自慢をスピーチ。



一斉。トリを務める東海中高は他校を圧倒する30人ほどがステージに上がり、お祭り状態。東海の良さを中高別に大盛り上がりでアピールしてくれました。(後ほどその一部を紹介※1)

その後東海のオーケストラ部も参加した合同オケと市邨吹奏楽部がステージ前に並び、希望プロジェクトのリハーサルが始まると、少しずつ人が集まってきて、緊張感も高まっていくのを感じました。

2時半からはいよいよ希望プロジェクト第一部が始まり、日本福祉大学付属高校と豊川高校の2校合同の和太鼓の力強い響きで会場の一体感が生まれ、その後東海オケの部長高2駒沢君がコロナ禍で味わったやるせなさ、そして掴んだ部活動の意義を語って始まった東海・愛知淑徳・南山女子・聖霊・椋山の合同オケの「威風堂々」の旋律はとても感動的なものとなりました。(MCは後ほど紹介※2)



その後は県内の私立の生徒会長がずらりと並び、生徒会長共同アピールを皮切りに第二部「総合芸術」



が始まりました。安城学園高校のダンス部の一系乱れぬ力強い「ライジングサン」。

市邨の吹奏楽、合同オケによる「負けないで」の伴奏に同朋・誠信・岡崎城西・高蔵の4校の合唱が合わさり、そこにクラッピングしながら踊る父母・教員の姿はまさに「総合芸術」。高フェスで学んだこと・ビッグフェスへの思いを語り、未来を見据えた決意表明を行った高3・高フェス実行委員長の弁論。一緒に学び、世界を広げ、希望を掴もうとする3人が朗読する構成詩。最後に600人の「笑っていたんだ」の群舞。

祭りのクライマックスにふさわしく、心をつにして、笑顔で踊るその風景は尊く輝いていました。



こうして希望プロジェクトで団結した力を爆発させる一方、嬉々とした表情で働く中高生、真剣な眼差しで自主練や準備を行う姿があちこちで見られ、一人一人にとっても晴れ舞台でもあったBIGフェスティバルの思い出は中高生のそれぞれの心に深く刻まれたことでしょう。

※1 生徒による東海高校紹介

自由な校風は東海高校の最大の魅力と言っても過言ではない。しかし真の自由とは制約の中でこそ生まれうるもの。制約の中で自由を謳歌して生徒たちの創造性を育てる、それが東海高校の流儀だ。その創造性の象徴こそ豊富な部活と学校行事だ！毎年6月と2月に開催される著名人を呼んで講演会を開く、サタデープログラム。そして去年と今年はオンラインで開催された記念祭。毎年たくさんの方にご来園いただける東海の一大大行事だ。東海高校は自由で、楽しくてクリエイティブ。覚えて帰ってってください！



ここからは参加した中高生にインタビューした内容や寄せてもらった感想などを紹介していきます！みんな一様にイキイキとした表情で語ってくれました。

◆ダンスフェス アンリミテッド∞ブレイカーズ

(高2和田君)僕は中学生の頃からダンスに興味があり、アンブレの先輩達の舞台を見て「絶対入りたい!」と思ってアンブレに入りました。しかし、高校生になると同時に新型コロナウイルス



スの影響で人前で踊ることができませんでした。

昨年も今年も、唯一ビッグフェスだけが人前で踊れるステージでした。だからメンバー皆で力を合わせて練習し、自分たちに出来る最高のパフォーマンスをしたいと思いステージに立ちました。すごく楽しかったです！僕はこれで引退しますが、後輩にもこんな気持ちを感じてもらいたいです。ビッグフェスを企画運営して下さった方々に感謝しています。



◆ジャグリングステージ ジャグリング部



(高2椿井君)お客さんの顔を見てパフォーマンスするのが久しぶりだったので、楽しかったです。

(中2松久君)初めてのオファーだった。自分が思っている以上に緊張したけど、その分楽しかった。いい経験になった。

(中2馬場君)2回目のオファー。1回目よりすごく成長したことが自分で感じられて、いい経験だった。



◆縁日ストリート

卓球部…本当は卓球を出したかったけれど、それは球が飛んでいってしまうので諦めて、縁日企画でボールつながりですーパーボールすくいと射的にした。ビニールプールは家から、ボールは市場まで買いに行った。結構準備が大変だったけど、みんなに楽しんでもらえて、やって良かったと思う。



生物部(トンボ班)…トンボを採りに三重まで出かけたりもするし、案外オアシス21の噴水近くでヤゴの抜け殻があったりして、どこでもいるのが魅力の一つ。採ってきたヤゴを自宅でアカムシとかボウ



フラなどの餌をやって孵化させたりもする。(その孵化の写真も見せてくれる)幼稚園の頃から虫が好き。

棋道部…サタプロやサマセミで将棋ブースをずっと出してきたが、コロナ禍でそれができなくなっていた。今回は小学生を中心に集まってきてくれて、久しぶりの指導対局が開催できて、失われた体験を取り戻す



という目的も果たせて、楽しかった。南山男子の将棋部もブースを出していて、一緒に対局して交流できたのも楽しかった。

奇術愛好会…(高1木戸君)

先輩のマジックを見てすごくカッコよくて、コロナ禍で始めた。主に学校で週2の部活で練習。僕はカードマジックを中心に腕を磨いている。(器用に指を動かし、コインマジックも披露してくれましたが、タネは全然分かりません!)



美術部…オンライン記念祭で動画を出そうと、YouTubeを参考にしながらピタゴラスイッチを考えた。5月にはそれぞれの部員が装置の設計図を書いて、6月から作り始め、合体。放置をすると、装置が歪ん





で思い通りに動かなくなってしまう。落下のタイミングを変更するための細かい調整などにも時間がかかった。今日は装置の一部を持ってきていて、記念祭の前に作りの説明しながら展示している。一番のこだわりは実在する橋をモデル

に作った橋。名港トリトン。系を通すのが難しかった。実際に車で通って、その最中に内側からの写真も撮ったりして参考にした。記念祭の動画を楽しみにしてほしい！（美術部らしく、まず設計図がうまい！色んな角度からの動画もあり、工夫に工夫を重ねた跡が分かって面白かったです。）



模型研究同好会

…レゴで作成したガンダムや、船のプラモデルなどを展示。



◆合同オケ オーケストラ部

（高2部長・駒沢君）部長の仕事は、普段部活をまとめること。コロナ禍では以前のように自由に集まって自由に練習することができず、場所や時間について綿密に計画を立てて練習を進めていく必要がある。今回の合同オケの練習に関しても、他校の生徒に東海にわざわざ来てもらって練習を行ったが、限られた時間をいかに濃密な時間にするかにこだわり、合同練習を行った。「何がやりたいのか？」よりも、「どれくらいの時間でできるのか？」に縛られてしまうところが少し残念だった。他校との練習では、まず学校によって雰囲気が違うところが興味深かった。東海は学生主体で活動を行っているが、他校では指揮を振っている先生主体で取り組んでい



るところもあり、自分の知らないオーケストラの世界を垣間見られたことは面白かった。合同練習では、それぞれの学校で異なる点を擦り合わせ、一つのオーケストラになっていった。多くの人が関わっている今回のオーケストラを何とか成功させたいと思い今日の本番に臨んだが、今日は素晴らしい演奏が奏でられたと思う。



（高2指揮者・下坂元君）東海オケに入って僕はずっとチェロを弾いてきた。中3の学校祭で指揮をする機会があったが、指揮を本格的にやり始めたのは今年の4月から。指揮者は、日頃の練習から音楽的な知識を持って様々な指示を出しながら指揮棒を振ることになる。幼少期から取り組んできたピアノ、中1から始めたチェロ、そして他のみんなが弾いている楽器から様々な音楽の知識を身につけてきたことが、今の指揮者としての自分に役立っている。また、これまでオーケストラ部でお世話になった指揮者の先輩の存在も大きく、その先輩たちを見て学んできたことを活かしての指揮に取り組んでいる。棒振りに関してはほぼフィーリングで行っているが、感覚さえ掴めばその棒振りにみんなが合わせてくれる。みんなに救われている。合同オケの指揮は、他校の生徒もすごく集中して指揮を見られるのでやりやすく、今日はとても楽しかった。合同練習は合計3回行い、今日の本番2曲を合わせてきた。2曲とももう少し練習に取り組みたかったが、限られた時間の中では十分にいいパフォーマンスができたと思う。



※2 東海オケ MC

僕達の部活動も、コロナ禍において、社会全体が自粛・行動の制約を受ける中、例外なく休止・縮小な

どの影響を受けました。部活動の性質上、今まで通り、みんなで楽器を用いて、まず音を奏でることすら非常に難しかったです。ほとんど部活動ができない日々。演奏機会も次々に無くなりました。またみんなで演奏できる日が来るのだろうかと思えず不安を抱え、部員一人一人が不安や寂しさといった空虚感と戦っていました。そんな中でも少しずつ、みんなや先生たちと様々な感染対策を考え、活動を再開させていきました。しばらくは練習が再開しても、発表をする機会もなく、なんのために練習しているのか、モチベーションを保つのが大変でした。今日、自分たちの仲間、そして他校の皆さんと一緒に合同でオーケストラの演奏ができることは、苦しかった日々を一掃できるかのような喜び・嬉しさでいっぱいです。コロナ禍で何のために部活をやるのか、部活を通して何ができるのかを再認識しました。何事も今まで通りには行きません。ですが、今まで以上のものを作ることができます。僕達高校生の団結した力、心のこもったオーケストラの演奏をお聞きください。

編集後記

私の息子は地味で、BIGフェスの手伝いをするようなタイプではないと思っていました。ところが今年は8時から手伝いで参加をし、誘われてなんと群舞を踊り、意外な側面を見せてくれました。一歩踏み出せば二歩三歩と続いていく。BIGフェスには中高生の熱を引き出す魔力があるように思います。

今回のT.F.Letterはたくさんの写真で彩られ、とてもにぎやかですが、この目で実際に見て聞いたBIGフェスはこんな程度ではありませんでした。今日この場に居合わせた意味を、大人だからこそ感じる夢のような時間を、少しでもお伝えしようと駆けまわりました。インタビューに答えてくれた中高生、ひいては参加・協力してくださった皆さまに、深く感謝いたします。



たくさんの東海生が参加してくれました！
テントなどの後片付けの途中で😊

次号の掲載予定

- ・ シリーズ「知りたい!隣の地域懇」～昭和編